

和歌山電鐵貴志川線 平成29年度実績

新たな10年の2年目 利用者減少で赤字決算へ

和歌山電鐵では、平成29年度の利用状況と収支実績について以下のようにとりまとめ、分析しています。

利用状況

開業から12年目となった和歌山電鐵の平成29年度利用実績は、前年比1.4%減(3万2千人減)の216万9千人となりました。

利用者数	29年度実績	28年度比	
定期外	75万7千人	▲2万6千人減	96.7%
通勤定期	65万5千人	▲1万4千人増	102.2%
通学定期	75万7千人	▲2万0千人減	97.4%
合計	216万9千人	▲3万2千人減	98.6%

定期外については、外国人団体客数は過去最高であった27年度の水準まで戻ったものの、それ以外の国内の観光需要や沿線の日常利用に縮小傾向がみられ、3.3%の減少となりました。

通勤定期については、団塊の世代のリタイアや少子化で生産年齢人口が減り続ける中、前年までの減少傾向から若干反転し、2.2%の増加となりました。

通学定期については、少子化の影響がまさに表れはじめ、当期は3.9%の減少となりました。

収支実績

運輸収入については、輸送人員の減少に伴い4百万円減の3億6千4百万円となりました。また、グッズ販売その他も減少した結果、営業収益全体では1千5百万円の減収となっています。

費用面では、施設の老朽化への対応は設備投資(更新工事)に特化してきていることから、修繕費は開業当初10年の水準に比べて下がってきているものの、今年度は台風21号による災害復旧ほかにより、営業費用は6百万の増加になっています。

営業外損益を含めた当期損益は、1千5百万円の赤字となりました。

これから

和歌山電鐵として開業した際の取り決めである自治体からの赤字補てん(運営補助金)は平成27年度をもって終了し、28年度からは、自治体の支援は鉄道施設の更新に特化する形に衣替えし、新たな10年がスタートしています。

この形態のもとでは、貴志川線存続のためには赤字の解消が絶対的に不可欠です。

しかしながら、再スタート当初の28年度は辛うじて赤字を回避したものの、残念ながら29年度は1千5百万円の赤字、という結果となりました。

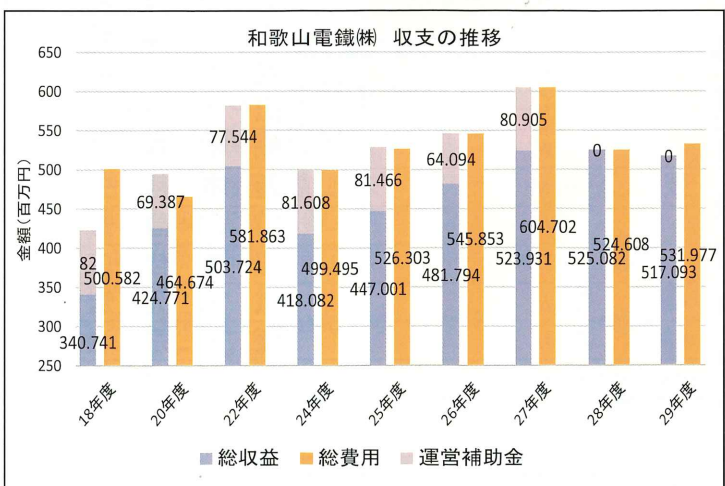
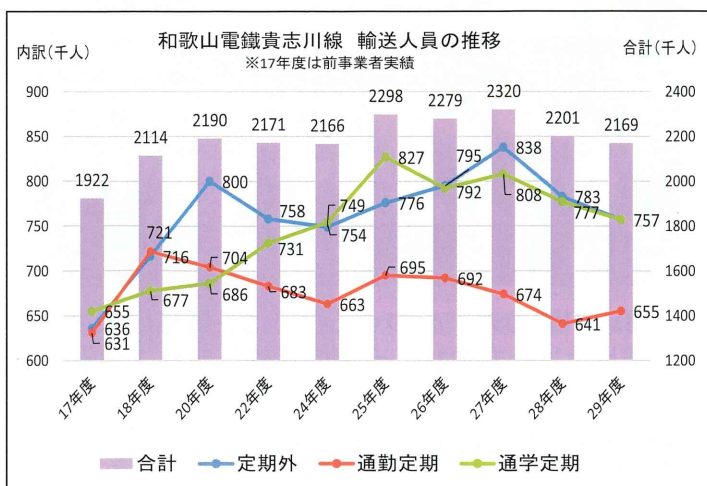
貴志川線の最大の課題である施設の老朽化対策については、28年度以降、道床(碎石)・まくら木・レール・橋りょう・分岐器といった線路設備、信号や踏切の制御装置や障害物検知装置といった信号保安設備、そして電柱や車両の主要

機器まで、更新工事を精力的に進めており、全体の中ではまだ緒についたところとはいえ、安全性は年を追うごとに向上してきています。

このように安定した運行のための土台は強固になってきている一方で、利用者がさらに低迷していけば、経営そのものが揺るぎかねないこととなります。

社員一同、気力体力、そして遊び心もまじえたアイデアで収益力の強化とコスト削減で難局を乗り切り、地方鉄道再生の真のモデルとなれるよう、努力してまいります。

事業者、行政(国、自治体)、そして市民それぞれが役割を担う“三方よし”の交通機関となれるよう、引き続き、地域の皆様の熱いご支援をお願いいたします。



代表から会員みなさまへ

希望ある未来に向かって更に努力を

貴志川線の未来を“つくる”会
代表 濱口 晃夫



今日も貴志川線は『和歌山電鐵』により運行され住民の生活の足を守ってくれています。しかし、全国に広く目を向けてみますと、多くのローカル線において経営状況は芳しくなく廃線との声も聞こえてきます。

先日「テレビ和歌山」の放送「ガイアの夜明け」で「どうなるニッポンのローカル線」との放送が流されていきました。トップニュースは島根県と広島県の間を走るJR三江線が2018年4月1日から廃線となった、このことに関わってきた沿線住民の取り組み等が取り上げられていました。(廃線の動きとしては2016年12月には北海道の留萌本線留萌～増毛間が廃止 2019年春には石勝線夕張支線が廃止予定などがあります。)

三江線について廃線を阻止するための住民の色々な活動も有ったようですが、最終的には一本に団結できず廃線となってしまいました。

貴志川線でも10数年前同じ様に廃線の問題が起りましたが、お蔭様で貴志川線沿線を中心にした地域

住民の皆様が一丸となって取り組んでくれた結果、行政のご理解ご支援を頂き廃線を免れました。今も存続し三位一体の鉄道として毎日走っています。しかし、前途多難安心できる状況ではありません。

和歌山電鐵貴志川線となって以来、皆様方のご協力の元色々な取り組みをしてきた結果お蔭で乗客数は増加し、27年度利用者は230万人台を回復いたしました。しかし、残念ながら28年・29年度は減少してしまいました。

貴志川線を今後も存続し乗客数を確保していく為には、一番大きな要素は地域住民の力です。特に我々『貴志川線の未来をつくる会』の会員の皆さんの更なるご支援、ご協力が必要であると考えています。

現在会員数は2,000人を超えていますが、高齢化もあって減少気味です。どうかご家族、ご親戚、ご友人等お知り合いの方々にお声掛けいただき、新しい会員確保にお力をお貸し下さい。

平成30年度(2018年)役員名簿 (平成30年4月14日第1回定例会確認)

役職	名前	役職	名前
代表	濱口 晃夫	幹事	中西 望
副代表	奥 重 視	//	大谷 豊
//	木村 幹 生	//	岸 光 男
事務局 長	奥 山 和 生	//	有 本 友 紀
事務局 次 長	奥 重 貴	監 査	中 西 充 子
//	堀 内 健 作	//	森 山 正 雄
//	川 村 記 義		
//	富 高 彰		
会 計 事	堀 瑛 瑛		
//	杉 林 雅 義		
//	中 西 由 子		
//	小 山 裕 史		
//	吉 本 昌 純		
//	岩 垣 勉		
//	山 下 日 出 子		
//	梶 本 祥 子		
//	西 本 哲 夫		
//	川 口 昌 宏		
//	稲 置 佳 広		
//	織 田 元 宏		
//	藤 田 宗 治		
//	次 田 尚 弘		
//	宮 脇 正 好		
//	鳥 淵 朋 子		



貴志川線の未来をつくる会では、貴志川線を盛り上げるために、一緒に活動しましょうと呼びかけています。

☎0736-64-6866 代表 濱口 晃夫まで

和歌山電鐵 職場訪問

将来にわたって持続可能な貴志川線へ

利用促進、増収対策にがんばる「営業企画課」を訪ね
竹添営業企画課長にお話を伺いました。

○営業企画課のお仕事の内容について教えてください

竹添 「営業企画課」は社員5名にパート・アルバイトさんを含める総勢12名で、様々な業務を兼務していますが、主にイベントの企画運営、グッズの企画、販売、伊太祈曽駅の窓口業務、貴志駅の売店やカフェの運営はじめ利用促進や増収対策の取り組みを行っている部署です。また、地域の皆様との窓口として、皆様方には大変お世話になっております。私たちの取り組みのベースは持続可能な貴志川線をめざし、その運営を通じて地域社会に貢献することにあります。

○今後の課題についてお聞かせ下さい

竹添 鉄道がある地域として将来にわたり持続可能な貴志川線となるよう、地域の皆様にとってサービスや利便性の向上に繋がる取り組みと、地域外からの来訪を呼び込む魅力作りの取り組みが課題で、同時並行的に進めていきたいと考えております。

○今後利用促進へどのような施策をお考えですか

竹添 ネット予約された各種継続定期券を和歌山、伊太祈曽、貴志の駅でお渡しすることや、イベントでは交通公園とのジョ

イント、事前申し込みの仕掛けづくりで、時代のニーズにあったお客様を呼べる新たなイベントも考えていきたいと思っています。それに他の事業者で成功している施策も取り入れていきたいですね。

○つくる会の会員へ一言を

竹添 鉄道は地域と共にあり、切っても切れない関係です。貴志川線の運営や日々の業務を通じて、地域のお役にたち、必要と思っただけの和歌山電鐵となれるようがんばって参りますので、変わらぬご支援と時には微を飛ばしていただければ幸いです。

課長のお話を伺ったところで、今回はメンバー2名をご紹介します。その他メンバーも含めどうぞよろしくお願致します。

刀橋 拓一朗(とね こういちろう)



入社4年目のナイスガイ。前職は運転士、主にたま駅長グッズの企画から販売管理を担当、O型らしく細かいことは気にしないのが長所でもあり短所とのこと。食べ物では「おでん」が好き。

沿線の皆様に安心してご乗車いただき、そして楽しんでいただけるように知恵をしぼってがんばりますと決意を語ってくれました。

下崎 良樹(しもさき よしき)



久し振りの新入社員で入社3年目のぽっちゃり型、自慢は良く通る声とのこと。主にイベントの設営・運営などの企画、たまには駅員やSHOP店員、駅長の世話なども担当。長所は仕事が好きで、からあげ、ラーメンが好きなB型人間、地域の足として永続できるようがんばってまいりますので、見かけたらお声がけ下さいとのこと。

駅長から会員の皆様へ

お客様招きにがんばる両駅長からお言葉をいただきましたのでお伝えします。

ニタマ駅長

美人でオシャレな駅長との評判を世界中からいただき感謝ニャン。たま永久名誉駅長に負けないよう、しっかり「任務を果たして行くニャン」



よんたま駅長

1年の見習い期間を無事終えて、今年1月に伊太祈曽駅長の辞令を社長からいただきました。これからも「がんばるニャン」



安全性向上の取り組み

■平成29年度も、国・自治体の支援を受け、鉄道施設の更新が進められています。



神前～龜山間の軌道更新

神前～龜山間では、まさに鉄道の土台をなす線路設備(道床・マクラギ・レール)の更新を行いました。また、衝突事故等を起こさないために働く信号システムにおける連動装置や信号機を更新したほか、踏切を正常に機能させるための制御用軌道回路、しゃ断機などの更新も進めています。

見た目には分からない地味なもの(全く写真映えしないんです!)が多いのですが、中身はひとつひとつ改良されてきています。

こうした取り組みにより、順次、鉄道の使命である安全性・安定性の向上が図られ、乗り心地も改善しています。



2017
6月

63人
参加



会報、29年度会費納入依頼
発送作業(6月24日)

7月



共育支援メニューフェア展示、
出張講座PR(7月31日)

8月



貴志駅夏季多客期応援
(8月11日~14日)

10月



和歌山商工まつり ミニトレ運転
グッズ販売(10月7日、8日)

述べ16人
参加

11月



第11回貴志川線祭り
(11月5日)

来場者
5,000人

3月



大池遊園「桜まつり」準備
(3月13日)

13人
参加

2018
1月



貴志川線のさらなる発展を
めざす新春交歓会(1月27日)

13団体が
参加

2月



第7回駅からウォーク&
ハイク(2月17日、25日)

2回開催
77人参加

4月



第13回貴志川線に乗って
たけのご掘り
(4月8日、14日、22日)

3日間で
314人参加

6月



第11回貴志川線に乗って
じゃがいも掘り(6月3日)

3回開催
412人参加

貴志川線応援絵手紙愛好クラブに感謝状

和歌山電鐵株式会社と貴志川線の未来をつくる会は、2018年1月開催した「貴志川線のさらなる発展をめざす新春交歓会」で、絵手紙電車に協力頂いている「貴志川線応援絵手紙愛好クラブ」(代表島本忠生)に感謝状を贈り、その取組みに感謝の意を表しました。



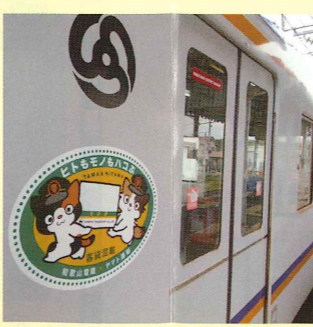
絵手紙電車は、島本代表から絵手紙を通じて貴志川線や沿線地域への関心を高めてもらう協力になればとの提案をいただき、2014年から運行を始めたもので、毎回全国各都道府県や海外から1,500通を超える応募があり、全国最大規模と評判で、電車内を埋め尽くす絵手紙はご利用者に大好評を博しており、和歌山電鐵の名物イベントとなっています。

トピックス

貴志川線で貨客混載スタート

和歌山電鐵とヤマト運輸は貴志川線で宅配便を輸送する「貨客混載」を2月に開始しました。

線路が狭く住宅が密集する、田中口駅~神前駅は電車で運び、自動車を使わず迅速な配達をする取組みです。奇しくも両社の目印は猫、協力タッグで連携を深めるとの事。



貴志駅前に「観光交流拠点」9月オープン

国内外からたくさんの観光客が訪れている貴志駅前に、「観光交流拠点」が建設され9月にオープンします。市民と観光客の交流スペースとして、観光地域づくりの事務局も設け、観光情報を発信し、周辺散策につなげることを目的に紀の川市が建設したものです。

中学3年卒業生に「お試し無料乗車券(2枚)」を配布

和歌山電鐵では、貴志川線の魅力を知ってもらうと共に、公共交通利用の経験を積んでもらう目的で、和歌山市と紀の川市の中学3年卒業生に無料乗車券を配布しました。

2017年 (平成29年)	
6月	10土 29年度第5回定例会 以降月2回年度内21回開催 15木 29年度第3回貴志川線運営委員会以降月1回12回開催 24土 会報、29年度会費納入依頼文書発送作業(63名)2,456通 25日 大賀バス「観蓮会」グッズ販売、入会受付(4名) 7月 6木~7金 和歌山駅9番ホーム会費受付(延11名)入会49名 16土 和大オープンキャンパス3社連携報告会(4名) 22土 西貴志コミセン夏祭り出店、グッズ販売、入会受付(4名) ワダイノカフェ「ローカル線の楽しみ方」(3名) 31月 共育支援メニューフェア 展示、出張講座PR(3名)
8月	11金~14月 貴志駅夏季繁忙期応援(延べ17名) 20日 電鐵主催「夏休み子ども電車教室」応援(2名)
9月	18月 名松線応援乗車延期について緊急打ち合わせ(4名) 26火 第11回貴志川線祭り 第1回企画委員会(7名)
10月	1日 西貴志コミセンまつり(紀の川市)出店、グッズ販売(4名) 7土~8日 和歌山商工まつり ミニトレ運転、グッズ販売(延べ16名) 23月 第11回貴志川線祭り 第2回企画委員会(8名)
11月	2木 紀の川市観光地域づくり旅行商品づくり勉強会(2名) 4土 第11回貴志川線祭り 準備作業(14名) 5日 第11回貴志川線祭り(来場者5,000名)スタッフ95名 14火 紀の川市観光地域づくり旅行商品づくり勉強会(2名) 23木 「うえるかむ きのかわ」ワークショップ(1名) 26土 伊太祈曽駅 イルミネーション取り付け、点灯式(16名) 30木 紀の川市観光地域づくり旅行商品づくり勉強会(2名) 29年度会費納入再要請文書発送作業(5名)519通
12月	3日 和歌山中央卸売市場「市場まつり」ミニトレ運転(5名) 9土 桜の木の手入れ(山東~大池遊園間)(10名) 16土 クリスマス電車プレゼント袋詰め作業(10名) 17日 クリスマス電車応援(貴志駅、和歌山駅、車内)(10名) 28木 門松作り、伊太祈曽駅、貴志駅に設置(7名)
2018年 (平成30年)	
1月	5日 たま駅長就任10周年記念式典、辞令交付(3名) 13土 伊太祈曽駅 イルミネーション撤去作業(10名) 15火 絵手紙電車取り付け作業(7名)紀北郵便局長会参加(10名) 21日 地域公共交通活性化シンポジウム(紀の川市主催)(4名) 27土 貴志川線のさらなる発展をめざす新春交歓会(13団体 37名)
2月	17土 第7回駅からウォーク&ハイク①15名参加、スタッフ13名 25日 じゃがいも掘り種芋植え付け作業(8名) 第7回駅からウォーク&ハイク②36名参加、スタッフ13名
3月	10土 ぶる博「ニタマ駅長にあえるイチゴづくし旅」応援(9名) 11日 大池遊園駅「桜まつり」準備・清掃・飾り付け(13名) 11日 「うえるかむ きのかわ」ワークショップ(1名) 12月 「いちご電車でいちご狩り」応援(2名) 12月 「妖怪電車」応援(妖怪変装、売店販売)(3名) 21水 第13回「たけのご掘り」抽選(6名) 29水 第13回たけのご掘り 一般の部①88名参加(9名) 大池遊園駅「桜まつり」飾り付け撤去作業(9名)
4月	8日 第13回たけのご掘り 一般の部②128名参加(9名) 14土 第13回たけのご掘り 会員の部98名参加(10名) 16月 29年度つくる会会計監査(3名) 17火 絵手紙電車取り外し作業(2名)紀北郵便局長会参加(10名) 22日 第13回たけのご掘り 一般の部③128名参加(9名) じゃがいも掘り準備 草引き作業(9名) 和歌山県中央メーデー ミニトレ運転応援(6名) たま駅長誕生日記念催事(貴志駅)(3名)
5月	3木~5土 貴志駅GW応援・記念入場券販売、案内(延19名) 8火 会報14号第1回編集委員会(6名) 24木 第11回じゃがいも掘り抽選(5名)
6月	1金 会報14号第2回編集委員会(6名) 2土 第11回じゃがいも掘り 準備作業(15名) 3日 第11回じゃがいも掘り 412名参加、スタッフ29名

貴志川線の未来を“つくる”会 平成30年度(2018年) 活動計画

結成15周年、未来に向けて若い力へ組織と活動の継承を図ろう

新生貴志川線が運行を開始して13年目を迎えました。行政の補助も発足時の欠損補助から設備整備の支援に変わり、29年度は1,500万円の赤字決算となり、厳しい状況が続いています。私たちの求める永続を確実にするために、利用者を増やし自立する事が何よりも必要です。

また私たち「つくる会」自身も、結成15年を迎え活動を推進してきた創成期の人材から、活動を未来へ発展させていくためには、若い力へ組織と活動の継承が必要な時期を迎えています。

私たちは、廃線の危機の中で立ち上がり、線路を残したいという熱い想いで“貴志川線の未来をつくる会”を結成した原点に戻って活動を行っていくこととします。

I. 基本方針

くらしを運び“まち”を結ぶ地域のたからである貴志川線を守り育てるため、乗車人員250万人の実現へ組織と活動の次代への継承を図り、地域のみなさんや諸団体との協働を強め活動します。

II. 重点目標

- 自立経営の実現へ引き続き輸送人員250万人の実現を目指します
 - 「チャレンジ250万人」運動に継続して取り組み、当面220万人の確保を目指します
 - 沿線住民の貴志川線利用促進に取り組みます
- 快適で便利で利用しやすい貴志川線づくりに取り組みます
 - 要望の集約と経営改善への「提言」をまとめ電鐵や関係機関に提案を行います
 - 大池遊園駅対向設備復活、日前宮～神前駅間新駅設置を目指します
 - 年1駅以上を目標に計画的に駅美化活動に取り組みます
 - 駐輪、駐車場の拡大に電鐵と協力して取り組みます

III. 具体的な取り組み

- 住民の想いを結集して活発な活動ができる組織づくりに取り組みます
 - 会員3,000名を目標に入会呼びかけを行います
 - ボランティアスタッフ登録と活動参加を進めます
 - 活動への若者の参加を沿線の学校に呼びかけ積極的に取り組みます
 - 会員限定イベントを開催いたします
 - 会に専門部会を設置して活動の強化を図ります
- 利用促進へ電鐵と協力してイベント開催、情報発信に取り組みます
 - 引き続きタケノコ掘り、じゃがいも掘り、貴志川線祭り、ウォーク&ハイク、クイズラリー、大池遊園さくら祭り、貴志駅春季・夏季多客期応援に取り組みます
 - 新たな発想に立ったイベントのアイデアを求め具体化を図ります
 - 地域のイベントに積極的に参加しPRに努めます
- きれいな駅づくりに計画的に取り組みます

駅清掃、駅ペンキ塗り、駅の花壇づくり、沿線桜の手入れ、草刈り、門松作り など
- 年末・年始三社参りの活性化に電鐵と協力し取り組みます
- 広報、PR活動に取り組みます

会報の発行、入会案内リーフレットの作成、ホームページの活用、「のぼり」の掲出
- 地方鉄道の存続と活性化へ、学習と政策活動に取り組みます
 - 地方鉄道活性化に取り組む諸団体との交流、協働に取り組みます
 - 公共交通維持強化の政策学習と資料の収集、活用に取り組みます

2018年6月～2019年5月 年間スケジュール

6月	貴志川線に乗ってじゃがいも掘り 会報と会費納入依頼発送
7月	和歌山駅ホームで会費受付 共育支援メニューフェア出展
8月	夏休み子どもスタンプラリー 貴志駅お盆繁忙期応援
9月	地方鉄道関係団体と交流会(予定)
10月	和歌山商工まつり 出店 コミセンまつり(旧貴志川町) 出店
11月	第12回貴志川線祭り
12月	貴志駅イルミネーション クリスマス電車
1月	迎春準備、門松製作 貴志川線の活性化をめざす新春交歓会 駅からウォーク&ハイキング たま名誉駅長誕生日催事
2月	駅からウォーク&ハイキング じゃがいも掘り植付け作業
3月	いちご電車でいちご狩り 地方鉄道学習会(予定)
4月	和歌山電鐵開業記念日催事 大池遊園「桜まつり」 じゃがいも掘り草引き作業 貴志川線に乗ってたけのこ掘り
5月	和歌山県中央メーデー ミニトレ運転 貴志駅GW繁忙期応援

※事情により変更される場合があります。

ボランティアスタッフ募集!

ご協力頂ける方は、お送りしております30年度会費振込票のボランティアスタッフの登録を「希望します」に○印をお付け下さい。

活動内容
駅の清掃、イベント、駅での案内・整理、駅プランター散水・花づくり、郵便物発送作業、情報発信(ポスター、ちらし作成)等

会員限定

1家に1冊 増量回数券

割引率はなんと20%! 1冊25枚綴りで運賃は20枚分!

一杯飲む日のお父さんに 塾・アルバイトの日のお子さんに

お買い物の日のお母さんに 通院の日のおじいちゃん、おばあちゃんに

ご家族みなでご利用ください。

平成29年度(2017年) 貴志川線の未来をつくる会 会計決算報告

2017年4月1日～2018年3月31日

平成29年度会員は2,024名、ご入会ありがとうございました。

平成29年度会計決算についてご報告いたします[30年度第2回定例会承認(2018年4月28日開催)]

一般会計

- 収入は、会員2,024名の会費と、前年度繰越金および寄付金(202名、491,050円)、和歌山電鐵グッズ販売手数料、貴志川線祭り売り上げ、預金利息等で収入総額は360万123円となりました。
- 支出は、事業費(利用促進イベント開催)と通信費(会費納入案内、会員限定催事案内)が大半を占め、「たけのこ掘り」と「じゃがいも掘り」の会員限定事業負担等で、総額は252万4,842円となりました。
- 収入、支出の郵貯振替は、会費入金タイムラグによる年度初期の費用として運用したものです。
- 繰越金の処理について、繰越金77万1,281円は全額30年度一般会計に繰り入れを行います。

「基金」および「特別会計」

- 「貴志川線整備基金」について、貴志川線の施設、車両の老朽化に備えて2007年(平成19年)から積み立てています。今年度支出は無く昨年度残額に利息128円が増額となりました。
- 特別会計は、「ニュース和歌山25周年記念助成金」(平成20年3月12日)と、「きしがわ文化財研究会」からの寄贈(平成28年4月8日)の残額で、今年度支出は無く利息4円が増額となりました。

平成29年度(2017年)決算報告

〈収入の部〉

科目	金額	摘要
前年度繰越金	662,407	
会費	2,024,000	1,000円×2,024名
雑収入	601,716	寄付、グッズ販売手数料等
預り金	12,000	会費(8名)
郵貯振替	300,000	
合計	3,600,123	

〈支出の部〉

科目	金額	摘要
通信費	658,877	会費納入、イベント案内ハガキ等
郵便振込料	141,220	会費郵便振込料1,190名分
広告宣伝費	123,610	会員募集チラシ、のぼり等
事業費	1,244,007	各種イベント、交流会、駅美化等
事務費	174,668	コピー使用料、倉庫借用、事務品等
交通費	182,460	イベント53件、スタッフ209名実費
預り金	4,000	会費4名充当
郵貯返金	300,000	
合計	2,828,842	

〈収支決算〉

収入	3,600,123
支出	2,828,842
次年度繰越金	771,281

〈繰越金内訳〉

普通預金	644,026	(紀陽銀行国体道路支店)
現金	127,255	
合計	771,281	

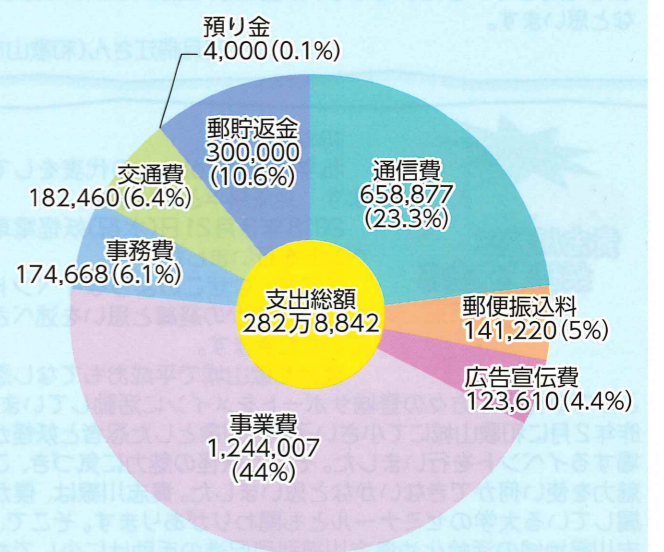
〈基金内訳〉(貴志川線整備基金)

定期預金	1,510,463	(紀陽銀行国体道路支店)
		(前期繰越1,510,335円と利息128円)

〈特別会計内訳〉

普通預金	759,506	(ゆうちょ銀行 友田郵便局)
		(前期繰越759,502円と利息4円)

〈支出執行状況〉



会計監査報告

2018年4月16日

貴志川線の未来を“つくる”会

代表 濱口晃夫 殿

監査 森山正雄 殿

監事 中西亮子 殿

貴志川線の未来を“つくる”会 会則第6条第8項にもとづき2017年度(平成29年度)会計監査を実施したので、下記により報告します。

記

- 監査実施日 2018年4月16日
- 監査場所 貴志川線の未来をつくる会事務局
- 監査対象 2017年度会計
- 監査期間 2017年4月1日～2018年3月31日
- 監査の結果 帳簿・証拠書類等が、正確かつ適正に処理されていることを認めましたので報告いたします。

以上

ひ ろ ば

会員、交流団体の皆さまからのお便りをご紹介します。



思い出のつまった
貴志川線、
これからも

貴志川線は思えば小さな頃から身近にある存在です。子供の頃は貴志川線沿線に住んでいたため、よく父親に肩車してもらいながら家の前を通る電車を一緒に見ていたのを覚えています。小学生の時には遠足で何度か四季の郷公園へ行く際にも利用していました。伊太祈曽駅まで車両いっぱい同級生達と電車に揺られながらお喋りをして、駅からは皆で歩きます。公園でおもいっきり遊んだ後はお弁当を食べて、帰りは電車の心地よい揺れに揺られながら友達と眠っていました。そして学生になってからも通学で、就職した今も通勤で毎日お世話になっています。

通勤中などに、駅のホームのポスターでローカル線ならではの地域に密着したイベントをよく見かけます。最近だと葛狩り、たけのこ掘りやじゃがいも掘りなど、豊かな緑に囲まれている貴志川線だからこぞできることなのだと思いますし、春の大池遊園の桜や初夏には平地緑地公園の大賀蓮など、沿線で四季を感じることができるのも貴志川線の魅力の1つだと思います。

そんな日頃からとてもお世話になっている貴志川線、これからも利用していきたいですし、本当に永く続いてほしいなと思います。

望月梢江さん(和歌山市)



貴志川線に
妖怪電車走る

初めまして!! 私学生団体kohezoの代表をしています 井澤耕平と申します。

2018年3月21日(水祝)妖怪電車イベントを行いました。

ここで、なぜこのようなイベントを企画したのかの経緯と想いを述べさせていただきます。

僕は和歌山城で平成おもてなし忍者として車椅子の方々の登城サポートをメインに活動しています。昨年2月に和歌山城にて小さい子供を対象とした忍者と妖怪が登場するイベントを行いました。そこで妖怪の魅力に気づき、この魅力を使い何かできないかなと思いました。貴志川線は、僕が所属している大学のゼミナールとも関わりがあります。そこで、貴志川線地域の活性化や貴志川線利用促進の手助けに少しでもなればなと思い妖怪電車を企画させていただきました。

結果は、総勢150人と大盛況でした。本当に感謝しています。今回感じたことは、未来は1つ1つの積み重ねだなということです。1つの例として今回のようなイベントを、次も、また次もと開催していくことでもっと貴志川線のことを そのよさを 知ってもらえることができると思います。こつこつと何かに取り組み、それを積み重ねることで素晴らしい貴志川線の「未来」を作ることができると思います。僕も引き続き、微力ながらも貴志川線の発展に協力させていただこうと思います。最後までお読みいただきありがとうございました。

学生団体kohezo 井澤耕平さん(海南市)



「Xマス電車」
ボランティアに
参加しました

私がこのボランティアに参加する事ができたのは、同じ職場のOさんとの何気ない会話からでした。Oさんとの雑談中に「ボランティアに興味があること、自分の時間が出来たこと、仕事の関係で友達との休みがあわないこと、等」を話しました。

それを聞いたOさんが貴志川線の「Xマス電車」のボランティアに誘って下さったのです。初めてのことなので不安はありましたが、せっかくの機会なので

と思い参加させていただくことにしました。

和歌山駅では当選ハガキの確認や、写真を撮ったりするお手伝い、とても寒い日でしたが、電車に乗り込む子供さんたちの様子は、これから始まるわくわくに寒さなんてどこ吹く風のように、中にはサンタさんのコスチュームのお子さんもいらっしゃいました。

貴志駅から乗ってこれれ和歌山駅で降りられた皆さんの表情は笑顔で、「楽しかったよ」「ありがとう」と言って下さり、お子さんたちは「バイバイ」と大きな声で挨拶してくれました。中には「また来るね～」と来年の予約までも(笑)

その様子に、こちらまで温かく幸せな気持ちになりました。

T・Mさん(海南市)



JR 北海道問題が
提起するもの

JR北海道が事業見直し(輸送密度2,000人未満の10路線13線区について、バス転換や上下分離方式による沿線自治体負担を求める)を公表して2年が経過しました。しかしこの2年間は、「どこを切るか!」の存廃判断を沿線に押し付けるだけで、年間300億円以上といわれる資金不足を「誰がどう担うか」の議論やそのための政策議論は何も協議されていません。

JR北海道問題が提起したものは、分割民営化の枠組みはもはや地域鉄道の維持を保証しないという事実です。日本の鉄道は今、「地域鉄道をいかに維持するか」の「第3の時代」を迎えています。昨年4月29日の北海道新聞は、北海道の基準を全国に当てはめると「道外では48路線が見直し対象となる」ことを明らかにし、JR東日本・富田社長の「路線見直しは避けて通れない。今後5年、10年で地域と議論する時期が来る」との考えを伝えています。四国においては既に北海道と同じ状況が起きています。JR四国は「自助努力だけでは路線維持は近い将来困難になる」として、自治体支援を求める方針を表明しました(昨年8月)。

国交省は、JR北海道問題は「JRと自治体が解決すべき地域の問題」と言っています。これは「公有民営の上下分離」を前提に、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(活性化再生法)の枠内で対応することを示唆しています。しかし活性化再生法は鉄道「第3の時代」を担う法律にはまだ育っていません。活性化再生法の守備範囲は「日常生活に関して形成される交通圏」つまり「生活圏」の機能確保にとどまっています。JR北海道やJR四国の路線は「生活圏」を超えて「生活移動、都市間移動、観光、物流」の機能を果たしています。ここに上下分離を導入するためには、活性化再生法の機能や守備範囲を広げ、交通政策基本法の基本認識を実現する個別法にしなければなりません。最も肝心なことは「地域鉄道は公的インフラである」という認識に実態を与えること、すなわち道路、港湾、空港と同じ位置づけ、同じ財政措置=地方交付税措置を地域鉄道にも適用することだと考えています。

石北沿線ふるさとネットワーク 事務局長 長南進一さん(北海道・北見市)

貴志川線の未来を“つくる”会 30年度新規継続入会募集中

引き続き貴志川線の発展へ活動を続けてまいります。

30年度会費の納入につきましてご協力いただきますようお願い申し上げます。

■会費 年額1,000円(期間:加入日に関わらず2019年3月31日まで)

■納入方法 郵便局振込み 口座番号:00960-1-277944

(事務局)和歌山市伊太祈曽558伊太祈曽神社内(9:00~17:00)

和歌山駅9番ホームで受付 7月4日(水)、5日(木)、6日(金) 15:00~19:30